

焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter



資料館だより
112号

特集 焼津と徳川

徳川家康

ゆかりの地を巡る

徳 川家康ゆかりの地と言えば、静岡市や浜松市、愛知県岡崎市、東京都といった地名が出てきますが、実は焼津市にも家康と関係する場所や逸話がたくさんあります。

家康と焼津とのつながりを語るうえで外せないのが、「八丁櫓」の話です。八丁櫓は、江戸時代から明治にかけて焼津で活躍した木造の漁船です。江戸時代、漁船は、軍船として使用できないように、八丁（櫓の数が八つ）以上の櫓を使うことは禁じられていました。しかし、焼津の漁船は、家康の警護をするため、特別に八丁櫓を使用することが許されたと伝わります。

ほかに海との関わりのある話としては、「御座穴」があります。この場所は、大崩海岸おおくずれがしにあり、家康が武田の軍勢に追われた際に身を潜めたと伝わります。大河ドラマで、服部半蔵が大崩を拠点にする場面がありました。半蔵が大崩を拠点にする場面がありましたが、大崩にいたという史実は残っていません。しかし、本当に拠点にしている、地形を知っていたのであれば、家康も隠れたかもしれないと考えるとロマンを感じますね。



八丁櫓（復元船）



▼ 徳川家康公床机据え跡（宗高） （焼津市指定文化財）

家康が鷹狩りの際に床几を据え、小休憩をとった。旧池谷代官屋敷跡。後に家康を祀った社を建てる。



▲ 罪切地蔵尊（栄町）

武田軍に迫られていた家康を助けた僧が褒美として与えられた名剣を祀った場所と伝わる。

▲ 海蔵寺（東小川）

時宗寺院。家康が鷹狩りの際に立ち寄った。家康や家康の十男頼宣から厚い信仰を受ける。徳川家ゆかりの品が多く残る。



当目砦跡（浜当目）

持舟城（用宗城）の出兵として役目があったと考えられ、徳川軍と武田軍の激しい戦いの舞台となった。徳川家の家臣、石川数正の逸話が残る。

鷹 狩り好きとして知られる家康。大御所となった後、駿府城を居城とし、鷹狩りのためにしばしば焼津市のある志太地域を訪れていたと伝わりま
す。市内には、家康が鷹狩りの際に立ち寄ったとされる場所やゆかりの寺社があります。
家康が鷹狩りの際必ず訪れたとされるのが和田の良知惣右衛門宅です。良知惣右衛門



▲ お手植えの松 （惣右衛門）

家康が植えたと言われる松。

ゆかりの地を巡り、特別展だけで見ることができない家康ゆかりの品をどうぞご覧ください。



会期：9月16日（土）～11月26日（日）
休館日：月曜日（祝日の場合翌平日）
入場無料

「焼津と徳川I天下人の横顔―伝説と史話から探る家康像―」を開催します。

焼津市歴史民俗資料館では9月16日（土）より特別展「焼津と徳川I天下人の横顔―伝説と史話から探る家康像―」を開催します。

焼津のひととの触れ合いを通じて家康の人柄がわかる逸話です。

その他にも、合戦の記録や家康に仕えた家臣ゆかりの地、徳川家ゆかりの品が焼津には残っています。

あまり知られてはいませんが、実は、家康との逸話が多い焼津市。あなたの足で巡ってみてはいかがでしょうか？

ある時、家康から呼び出された惣右衛門は、手土産にドジョウを持って、駿府城を訪ねました。ところが、ドジョウを「つっここ（藁の入れ物）」にいられたため、すき間から逃げてしまい、一匹もいませんでした。家康は、少しも怒らず、惣右衛門にご馳走をふるまい、小判を与えました。惣右衛門は、もらった小判を周りの人にあげてしまい、そのことを聞いた家康は、「欲のないやつだ」と、感心して、さらに褒美を与えたといわれています。

は、元々は武士で、和田の地を開拓した豪農です。家康は、惣右衛門の正直で明るく欲のない人柄を愛し、「みだらけ（御）百性家」と命名したそうです。惣右衛門もまた、度々、家康を訪ねて駿府城に向いたそうです。家康と惣右衛門のこんな逸話があります。

は、元々は武士で、和田の地を開拓した豪農です。家康は、惣右衛門の正直で明るく欲のない人柄を愛し、「みだらけ（御）百性家」と命名したそうです。惣右衛門もまた、度々、家康を訪ねて駿府城に向いたそうです。家康と惣右衛門のこんな逸話があります。

学芸員の推♡



花沢城跡

「花沢城攻撃の武田氏陣形図」

今川VS武田！激戦の様子を描く！

今回の学芸員の「推し」を担当するのは、**葦科学芸員**。某テレビ番組にも出演。焼津市歴史民俗資料館の**若手学芸員**であり、**広告塔**です。そんな**葦科学員**の推しは：



「あっと、また洪いですね。では存分に推しについて語ってください。」

「戦国時代といえは**お城!**というイメージを持たれている方も多いと思います。」

あまり知られていませんが、実は焼津市にも戦国時代のお城が5つありました。

今回ご紹介する「**花沢城攻撃の武田氏陣形図**」は現在の焼津市高崎にあった花沢城を武田軍が攻めた時の陣形を

描いたものです。

城を守るのは今川方の**武将大原(小原)** ひげのかみすけよし。城内には**門や土蔵櫓**が見えます。

城を攻める武田軍には、**武田信玄**、息子の**勝頼**をはじめ、**重臣の馬場や内藤、真田の名前**が確認できます。

この図の作成年は不明ですが、『**甲陽軍鑑**』や江戸時代の地誌に攻城の様子が記述されていることから、これらを元に後世に描かれたものと考えられます。

デフォルメされた図ですが、当時の花沢城の激戦の様子を今に伝える貴重な資料です。

ぜひ資料館に来館して、他のお城と合わせて戦国時代の焼津のことを知っていただければと思います。

「ありがとうございます。いや、武田の軍がここ焼津に来たと思えるワクワクします！さて、次回はどうなるか**「推し」**が出てくるのかお楽しみに！」



「花沢城攻撃の武田氏陣形図」

やまごんのお部屋



かいだんだんす
今回はやまごんのお部屋にある**階段筆筒**を紹介するよ！

えどじだい まちや どそう はこかいだん
江戸時代初めころに狭い町屋や土蔵で登場して、「箱階段」とも呼ばれていたんだって！
それまでは、**収納**っていうと「**櫃**」や「**長持ち**」って言われる箱みたいな**収納道具**だったんだ！



かいだんした ゆうこうかつよう とだな
階段下のスペースを有効活用するために、引き出しや戸棚が取り付けられたんだって。

建物に取り付けて壁と一体化しているものと、移動できるものがあるんだって。限られた空間の中でスペースを利用するための、生活の知恵が詰まった道具だね。

やまごんのお部屋の階段筆筒は**大井川地区の土蔵**で使われていたものだよ。

学芸員より…土蔵とは**土の壁**でできた蔵、今でいう**倉庫**みたいな建物のことだよ。



【発行・問合せ】

焼津市歴史民俗資料館

〒425-0071

静岡県焼津市三ヶ名1550

☎054-629-6847

【表紙写真】旗掛石 家康が当日合戦の際、この巨石に勝利を祈願したと伝わる。また、鷹狩りの際になどに旗を立てたと伝わる。